

科目名	日本文化史			ナンバリング	JPN232	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	松本麻子	担当教員					

授業の概要	本講義では、上代から近世までの著名な日本文学作品を原則として一作品ずつ取り上げ解説する。高校生の時に読んだことのあるものや、名前は聞いたことがある作品についてより詳しく学び、これらが日本の文化にどのような影響を与えたのかを考える。ただ時代ごとに作品名を丸暗記するものではなく、日本の文化はどのような歴史をたどって現在に至るのか、という問題を理解することが目的である。						
到達目標	1. 日本の歴史について理解することができる。 2. 日本の文学と文化について、知ることができる。 3. 講義で学んだ古典作品が現代にどのように結びついているか、説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	中学校で学んだ日本の歴史について復習しておくこと。特にIMUドリル社会の1または2を終えていない学生はあらかじめ学修しておくこと。授業で聞いた内容について、図書館で積極的に調べ、知識を深めるよう努力すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
・日本文学・文化の歴史の流れを理解することができること。 ・関心を持って授業に参加することができること。 ・授業中に発言を求められた場合は、自分の意見を述べるることができること。 ・授業の予習、復習を少しでも行っていること。 ・授業で聞いた内容について、関心を持って学ぼうとしていること。 ・課題のレポートでは、問いをたてて答えを発見できていること。	・日本文学・文化の歴史の流れを正しく理解することができること。 ・強い関心を持って授業に参加することができること。 ・授業中に発言を求められた場合は、自分の意見を論理的に述べるることができること。 ・授業の予習、復習を積極的に行っていること。 ・授業で聞いた内容について、授業の後に関心を持って積極的に学んでいること。 ・課題のレポートでは、独創的な問いをたてて答えを発見できていること。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○	○	55%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○	○	25%
授業態度・授業への参加	○	○	○	○	○	○	20%

課題、評価のフィードバック	1. リフレクションシートの返却。 2. より良いレポートの書き方のための指導。 3. 期末レポートの返却。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	講義の進め方、古事記・日本書紀について	授業のガイダンス。古事記・日本書紀について学ぶ。	
	第2回	万葉集を読む□ □ □ □	万葉集の和歌について学ぶ。	
	第3回	伊勢物語 ―在原業平の恋―□ □	伊勢物語と在原業平について学ぶ。	
	第4回	古今和歌集 □ □ □	和歌の聖典、古今和歌集の特質を学ぶ。	
	第5回	日記文学―土佐日記・蜻蛉日記など― □ □	日記に書かれた内容から、日本の文化を学ぶ。	
	第6回	枕草子 ―ものづくしとブログ― □ □ □	枕草子の表現力と着眼点について学ぶ。	
	第7回	源氏物語の世界 □ □ □	源氏物語の独創性について学ぶ。	
	第8回	大鏡 ―道長はなぜ成功できたか― □ □	大鏡を読み、摂関政治と藤原道長の人生を学ぶ。	
	第9回	武士の世の中	武士と文学の関わりについて学ぶ。	
	第10回	説話□ □	中古・中世の主要な説話集について学び、説話の種類を学ぶ。	
	第11回	方丈記・徒然草 □ □ □	方丈記・徒然草と無常観について学ぶ。	
	第12回	連歌の世界□ □ □	連歌文芸について知る。	
	第13回	能と狂言 □ □ □	能、狂言の相違、世阿弥の活動について学ぶ。	
	第14回	榊原西鶴と近松門左衛門 □ □ □	近世初期の出版文化と西鶴・近松の作品について学ぶ。	
	第15回	松尾芭蕉と俳諧 □ □ □	俳諧という文芸と松尾芭蕉の功績について学ぶ。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		教科書は指定しない。プリントを配付する。		
授業外学習の指示		授業の予習・復習を欠かさず行うこと。参考文献を示すので、図書館で探し読んだり調べたりしておくこと。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	使用しない。
参考書	教室で指示する。
参考URLなど	インターネットの情報は用いない。
その他	特になし。